

二中 学校便り



善は急げ

-良い行いは急いででもやろう-

E やまと・みなみまちグループ
東大和市立第二中学校
令和8年度 第2号
(令和8年5月1日)
校長 大島 清和

祝日も成長の機会に

副校長 津田 正樹

令和8年度の教育活動がスタートして1カ月が経ちました。新たな学年でがんばろうとしている生徒の姿を様々な場面で見ることができ、どの学年も良いスタートが切れているように感じます。反面、少し無理をして、がんばりすぎている生徒もいるのではないかと心配もしています。このゴールデンウィークで英気を養って、5月以降も学習や部活動等にいきいきと取り組んでほしいと思います。

さて、ゴールデンウィークは、昭和の日も含めると、4日間の祝日があります。祝日は、「国民の祝日に関する法律」において、「自由と平和を求めてやまない日本国民は、美しい風習を育てつつ、よりよき社会、より豊かな生活を築きあげるために、ここに国民こぞって祝い、感謝し、又は記念する日を定め、これを『国民の祝日』と名づける。」とされています。

これからの日本で、美しい風習を育て、よりよい社会やより豊かな生活を築いていくことになる子供たちにも、この国民の祝日の意義を知ってほしいと考えています。そのための1つの取組として、私が担任だった頃、祝日の前に、その祝日の趣旨について、関連する行事や文化を織り交ぜながら話をしていました。続けていくうちに、子供たちが自ら調べて発表してくれるようになり、学びが広がっていったことを思い出します。

例えば、ゴールデンウィーク期間中の祝日の趣旨は、国民の祝日に関する法律で、以下のように定められています。

昭和の日：激動の日々を経て、復興を遂げた昭和の時代を顧み、国の将来に思いをいたす。

憲法記念日：日本国憲法の施行を記念し、国の成長を期する。

みどりの日：自然に親しむとともにその恩恵に感謝し、豊かな心をはぐくむ。

こどもの日：こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する。

どのようなこともつい教育に結びつけて考えてしまうのですが、これら祝日の趣旨も、様々な教育活動に通じる部分があるように感じます。例えば、みどりの日の「豊かな心」という言葉は、本校の教育目標にも掲げられている言葉です。昭和の日の「激動の日々を経て、復興を遂げた昭和の時代を顧み」というのは、歴史の学習とつながりそうです。また、道徳の「思いやり」、「感謝」、「郷土を愛する態度」、「国を愛する態度」等と関連を感じる内容も見受けられます。

そう考えると、祝日はゆっくり休むのもいいですが、趣旨を知り、それに関係する人と一緒に過ごしたり、関連する場所や行事に出かけたりすることで、新たな学びや成長の機会とすることができそうです。

最初にしたとおり、このゴールデンウィークで英気を養ってほしいと思っていますが、1日だけでも祝日の趣旨に沿った過ごし方をするのも良いのではないのでしょうか。

学校の様子

1学期始業式・入学式・新入生歓迎会

4月7日に1学期始業式、8日に入学式が行われました。79名の新入生を迎え、令和8年度の教育活動がスタートしました。新しい環境で緊張している様子の生徒もいましたが、それぞれの目標に向けてがんばろうとしています。

翌9日には、新入生歓迎会が行われました。先輩たちが、専門委員会や部活動について紹介しました。1年生は、自分が入る委員会や部活動を決める参考にしようと、真剣に話を聞いていました。



学校公開

4月25日に学校公開を行いました。保護者の皆様には多数ご来校いただき、ありがとうございました。各教科の学習に一生懸命取り組んでいるお子様の姿を見ていただけたことと思います。また、その後のアンケートでは、学校に対して温かいお言葉をたくさんいただき、ありがとうございました。



高架下の音祭

4月26日に、東大和市駅前で行われた高架下の音祭に、本校の軽音楽部が出演しました。アンコールを含め約30分間の演奏で、会場を大いに盛り上げました。

